

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 臨床・健康教育学系 准教授

氏 名 池田 吉史

研究期間 令和3年度

研究プロジェクトの名称	特別な教育的ニーズのある子の算数の学習支援方法の開発Ⅱ
研究プロジェクトの概要	<p>本研究は、小学校特別支援学級に在籍している特別な教育的ニーズのある子どもの算数の学習支援方法を開発することを目的とした。特色は、①知的障害のある子どもを対象とすること、②数処理、数概念、計算、文章題を含む算数スキルの発達理論に基づいた支援を行うことであった。意義は、①特別支援学級や通級による指導を想定した学習支援方法を開発できること、②特別支援教育と教科指導との融合を促進できることであった。期待される成果として、①小学校における特別支援教育推進モデルの提案と②大学院生の理論に基づいた高度な教育実践力の養成に対する貢献が挙げられる。</p>
<p>研究 成 果 の 概 要</p> <p>※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。</p>	<p>小学校に在籍する算数学習に特別な教育的ニーズのある児童1名を対象とした。研究は、令和2年度に実施したフェイズ1及びフェイズ2を踏まえて、フェイズ3として実施した。フェイズ1では、算数の教科学習の発達理論に基づいたアセスメントの実施と支援方法の考案を行った。その際、下記に示す算数の4領域から包括的なアセスメントを行った。①数処理（数詞、数字、具体物の連合学習）、②数概念（瞬時把握、比較、計数、一対一対応、基数性、階層的包含、数の保存）、③計算（暗算、筆算）、④文章題（問題理解過程、問題解決過程）の4領域である。アセスメントの結果、数概念の瞬時把握と計数が発達課題であることが示された。フェイズ2では、携帯型タブレット端末を用いたゲーム感覚で取り組める瞬時把握の学習方法を実施し、瞬時把握の速さ正確性の両面で向上が示された。フェイズ3では、遊び活動を通して、概念的瞬時把握と計数の指導を実施し、その効果を検証した。その結果、概念的瞬時把握について、速さと正確性の両面でプラトー現象が確認された。計数については、成績の向上が観察された。</p>
研究成果の発表状況	現在、データの詳細な分析を行いながら、研究成果の発表準備を行っているところである。
学校現場や授業への研究成果の還元について	研究成果は、大学院講義や免許更新講習、現職教員向け研修会等を通して広く公開する予定である。